

データを活用してビジネス価値とするには行動する仕組みが重要

データ活用は、データを集めて分析するだけでは価値はありません。アクションを起こし成果を残すことが求められます。そのためには、**データ活用の仕組み**（データ、プロセス、運用、体制、システム、ナレッジ）が重要となります。元となるデータと活用するシステムだけでなく、データを活用するプロセス、それを運用するフローと体制、意思決定を支える担当者の経験・知識（ナレッジ）が必要になります。

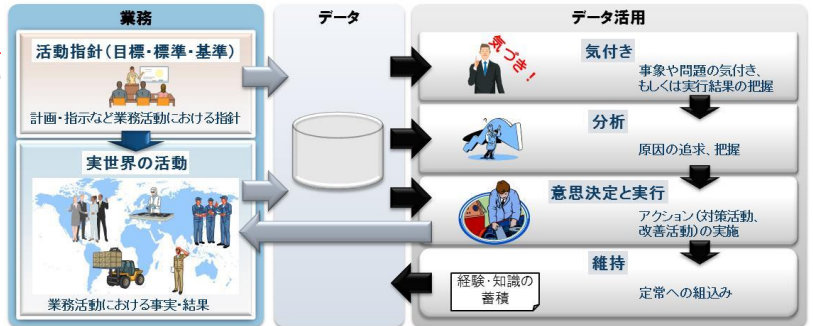
データ活用のあり方をとらえた業務設計ができるかが成功の鍵

データ活用の仕組みを構築するために抑えなければならない要素があります。それをここでは、**データ活用のあり方**と呼んでいます。データのあり方を理解していない場合、高機能なBIツール導入やデータ分析の実施をしてもアクションにつながらず、成功といえる状況になっていない企業が多く見受けられます。

データ活用のあり方は、

- ・データから事実や変化の兆しに気付くこと
- ・データから対処（分析し、アクションが）できること
- ・データからその結果を維持すること

です。データ活用の成果を残すためには、このあり方を理解した上での業務設計が重要です。

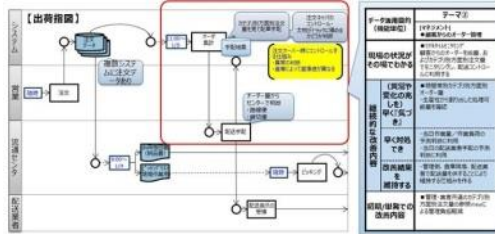


データ活用のあり方

ご支援プラン

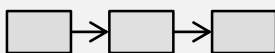
データ活用要求のある業務に対して業務フロー図の入手もしくは作成して、データ活用のあり方を適用することによってどのような効果が有るのか整理していきます。意思決定に必要なデータ、意思決定するために必要なプロセス、それを運営するためのフローを明確に定義して、実現させるための具体的な施策をご提示いたします。

業務フロー図などを用いて、データ活用すべき箇所を特定し、活用効果を定義する。



ステップ1

現状データ定義と業務フロー図・承認フロー図の入手し、データ活用できるプロセスを調査する。



ステップ2

データ活用することで、業務で効果があるか、ヒアリングやレビューなどにより検証していく。



ステップ3

現状とのギャップを抽出し、優先順位などを加味しながら課題と対応策を整理していく。

データ活用目的 (機能単位)	テーマ
現状の状況がその場でわかる	×××
(異常や変化の兆しを) 早く気づき	×××
早く対応できる	×××
改善結果を維持する	×××
初期/稼働での改善内容	×××

●上記以外でも様々なスタイルでご支援させていただいております。詳細は別途ご相談ください。

株式会社 データ総研

代表取締役社長 堀越 雅朗

1985年創立。データ設計と標準化を専門分野とするITコンサルティングファーム。

データ中心アプローチ(DOA)における先駆的企業であり、PLAN-DB®、PLAN-APL®など独自開発の設計技法や開発方法論をベースにコンサルティング事業を展開。データマネジメントの世界的教育・研究機関であるDAMAインターナショナルから、データマネジメント知識体系 (DMBOK) 教育機関として認定を受けている。

上場企業を中心に多数のリーディングカンパニーへの支援実績を有する。

東京都中央区日本橋小伝馬町4-11ナコンビル TEL:03-5695-1651 FAX:03-5695-1656 <http://www.drinet.co.jp>